

# 名大の時間

## 選んだ道を正解にすること

雪に未だに慣れないが、友人や先輩に恵まれ、楽しい日々を送ることができている。

私の出身地は日本一の湖を有する滋賀県だ。よって、ほとんどの同級生は関西圏に進学したが、私は最北端の大学を目指した。その理由の一つはオープンキャンパスでの経験である。

私は、一昨年の8月初旬に行われた来

場型のオープンキャンパスに初めて参加した。コロナ禍の影響もあり、それまではオンラインでの参加しかできなかった。両親の応援を受け、私は一人で飛行機に乗り、名寄に向かった。

オープンキャンパス当日は学科ごとの模擬講義が行われ、私はかねてより志望していた社会福祉学科の講義に参加した。社会福祉につい

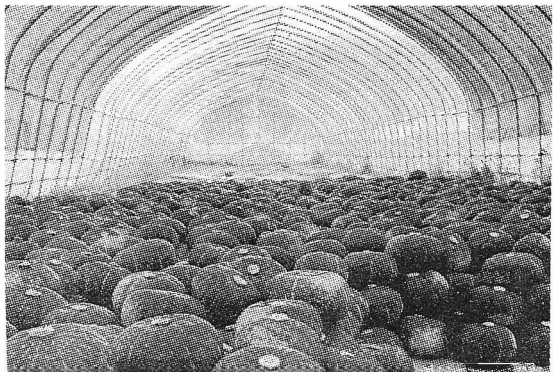
て考える軽妙な入門講義に、私はぐっと引き込まれた。そして、講義が終わると、先輩方が大学構内を案内してくれた。先輩方は素敵な笑顔で私を歓迎してくださり、徐々に緊張がほぐれていった。

また、オンラインでの進学相談会でお会いした先輩が私に声をかけてくださり、その心遣いにも感動した。この経験が決定打となり、私

は名寄市立大学に入学した。

入学当初は大学生活に慣れることで精いっぱいだったが、次第にサークルやボランティア、アルバイトなどに参加するようになった。中でも、援農ボランティアの活動が特に印象深い。

名寄で育つ様々な作物の農作業に関わり、名寄の野菜がとてもおいしいこと、そのおいしさが農家さんの愛情と努力の結晶であることを実感した。その後スーパーで野菜を見るの



の影響を与えた。

選んだ道を正解にすること。これは、私が高校の卒業文集に書いた言葉である。そこで、自分が選んだ

が楽しみになり、自炊をする際にも野菜をできるだけ取り入れるように心がけている。このように援農ボランティアでの出会いは、私に多く

道に対して胸を張ることができるよう、名寄の地で努力を続けたい。

社会福祉学科1年  
久保さや佳

大学生活ももうすぐ一年を迎える。道外出身の私は名寄の